

WATER-AND OIL-REPELLENT COMPOSITION

Patent number: JP58042682
Publication date: 1983-03-12
Inventor: ABE AKIRA; TANAKA MASAKI; TERAIE NOBUYUKI
Applicant: SHINETSU CHEM IND CO
Classification:
- international: C08L27/12; C09K3/18; D06M15/66
- european:
Application number: JP19810140555 19810907
Priority number(s): JP19810140555 19810907

Report a data error here

Abstract of JP58042682

PURPOSE: To provide the titled compsn. consisting mainly of a polyfluoroalkyl group-contg. polymer and a specified organopolysiloxane and producing fabrics excellent in flexibility, impact resilience and high speed sewing property. **CONSTITUTION:** The compsn. consists mainly of a mixt. of (A) 50-99% polyfluoroalkyl group-contg. polymer and (B) 1-50% organopolysiloxane of the formula (where A is epoxy, acrylic, methacrylic, amino; hydrocarbon group substituted therewith; R is H or 1-8C substituted or unsubstituted hydrocarbon group; a, b and a+b are each 1-3). The blend ratio between components A and B may be adjusted according to the properties required of the water-and oil- repellent agent to be produced and the type of organopolysiloxane. The adjustment may be done by the amount of epoxy, (meth)acrylic or amino group-contg. hydrocarbon group in the organopolysiloxane.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

BEST AVAILABLE COPY

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—42682

⑤ Int. Cl.³
 C 09 K 3/18
 C 08 L 27/12
 // D 06 M 15/66
 (C 08 L 27/12
 83/04)

識別記号
 1 0 4

庁内整理番号
 7229—4H
 6946—4J
 7107—4L

⑬ 公開 昭和58年(1983)3月12日

発明の数 1
 審査請求 未請求

(全 6 頁)

⑭ 撥水撥油組成物

⑯ 特 願 昭56—140555

⑰ 出 願 昭56(1981)9月7日

⑱ 発 明 者 阿部晃
 安中市磯部3—19—1

⑲ 発 明 者 田中正喜

安中市下間仁田1003の2

⑳ 発 明 者 寺江信幸

安中市築瀬787の2

㉑ 出 願 人 信越化学工業株式会社

東京都千代田区大手町2丁目6
 番1号

㉒ 代 理 人 弁理士 山本亮一

明 細 書

1. 発明の名称

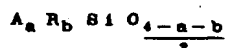
撥水撥油組成物

2. 特許請求の範囲

イ) ポリフロロアルキル基含有重合体

50～99%

ロ) 平均組成式



ここにAはエポキシ基、アクリル基、
 メタクリル基、アミノ基のうちの少な
 くとも1個を有する炭化水素基または
 置換炭化水素基、Rは水素または炭素
 数1～8の置換または非置換炭化水素
 基で、a、bおよびa+bは1～3の
 正数を示す

で表わされるオルガノポリシロキサン

1～50%

とからなる組成物を主剤としてなる撥水撥油
 組成物

3. 発明の詳細な説明

本発明は撥水撥油組成物、特に柔軟性、反撥
 弾性および高速縫製性にすぐれた製品を与える撥
 水撥油組成物に関するものである。

繊維製品の撥水处理剤についてはすでに各種の
 シリコン組成物が公知とされているが、撥油性
 を加味した撥水撥油剤についてはフッ素系化合物
 が有用のものとされ、これについては例えばパー
 フロロアルキル基を含有するアクリル酸またはメ
 タクリル酸のエステル、スルホン酸アミドなどの
 重合体、あるいはこれらのモノマーとアクリル酸
 エステル、無水マレイン酸エステル、スチレン、
 塩化ビニル、ブタジエンなどのモノマーとの共重
 合体が実用化されており、これにはまたパーフロ
 ロアルキルチオ基含有のウレタン系重合体(特公
 昭55—18246参照)、パーフロロアルキル

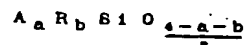
特開昭58-42682(2)

基を含有するリン酸エステル、クロム錯酸（特公昭33-466参照）が知られている。

しかし、これらの撥水撥油剤には、これで処理した繊維製品が手触り感が硬くなり、柔軟性に欠けたものとなるほか、これは潤滑性が劣るために高速縫製時にしばしば糸切れが生じるという不利があつた。そのため、この種のフッ素系撥水撥油剤については、これをペラフィンオイルまたはワックスエマルジョンと併用するというも行なわれているが、この場合には撥水性が低下するという問題があり、このフッ素系化合物としてのパーフロアルキルウレタンあるいはパーフロアルキルアクリレートに無水マレイン酸とアミンまたはアミノシロキサンとの反応物を混合するという方法（米国特許第4,070,156号参照）も耐洗濯性は改良されるが柔軟性、高速縫製性が改良されないという不利がある。また、これについてはフルオロアルキル基含有化合物にシメチルポリ

シロキサンまたはメチルヒドロジエンポリシロキサンを添加してなる撥水撥油組成物も特公昭51-27703、特公昭53-81799で提案されているが、この場合には柔軟性、耐摩耗性は改良されるが、撥水性、反撥弾性に欠点が生じるという不利があつた。

本発明はこれらの不利を解決した撥水撥油組成物に関するもので、これはイ) パーフロアルキル基含有重合体50～99%とロ) 平均組成式



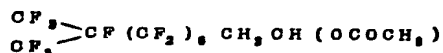
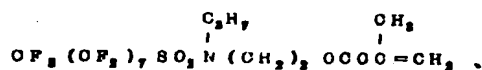
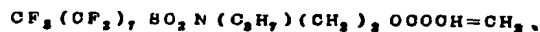
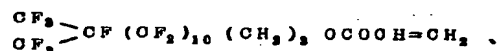
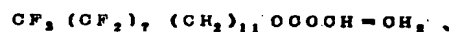
（ここにAはエポキシ基、アクリル基、メタクリル基、アミノ基のうちの少なくとも1個を有する炭化水素基または置換炭化水素基、Rは水素または炭素数1～8の置換または非置換炭化水素基で、a, bおよびa+bは1～3の正数を示す）で表わされるオルガノポリシロキサン1～50%とからなることを特徴とするものである。

これを説明すると、本発明者らはこのパーフロアルキル基含有重合体を主剤とする撥水撥油組成物について種々検討の結果、このパーフロアルキル基含有重合体にエポキシ基、アクリル基、メタクリル基、アミノ基を有するオルガノポリシロキサンを配合したもので繊維製品を処理すると、この繊維製品は手触り感が柔軟となるほか、平滑性、反撥弾性が改良され、さらには高速縫製性も10～30%向上するという事を見出すと共に、このものはまた塗料、ワックス、電子部品の防湿剤、離型剤としても有用であることを確認して本発明を完成させた。

本発明における第1成分としてのポリフロアルキル基含有重合体は、従来この種の撥水撥油剤に使用されている公知のもので、これは一般式

$R_f ROOCOR' = CH_2$ （ここに R_f は4～15個の炭素数をもつ直鎖状または分枝状のパーフロアルキル基、Rは1～10個の炭素数をもつ2価

の炭化水素基、R'は水素またはメチル基を要わず）で示される不飽和エステル類を構成単位として含む重合体または共重合体であり、これには



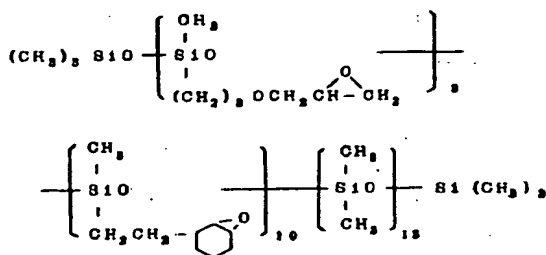
などのように炭素数が3～20個、好ましくは4～15個のパーフロアルキル基を含むアクリレートまたはメタクリレートで代表される不飽和エステル重合体あるいはかかる不飽和エステルとフロロアルキル基を含まない重合し得る化合物の1種または2種以上の共重合体などが例示され

る。このフロロアルキル基を含まない重合し得る化合物としてはエチレン、スチレン、アクリル酸、メタクリル酸、またはそれらのエステル、無水マレイン酸などが挙げられるが、このポリフロロアルキル基含有重合体は前記したペーフロロアルキル基を含有するポリウレタン、クロムを含有するフッ化炭化水素系結晶などであつてもよい。

他方、本発明の潤滑油剤を構成する第2成分としてのオルガノポリシロキサンは前記したように、一般式 $A_n R_b Si \frac{O}{4-a-b}$

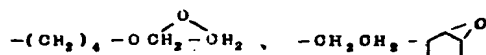
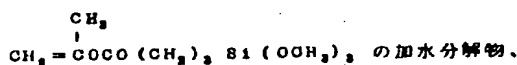
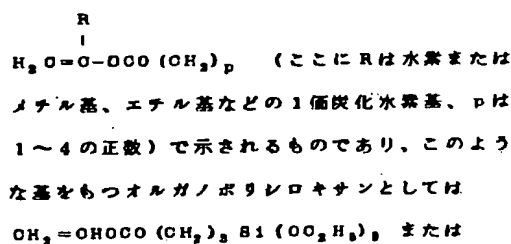
で示されるものであり、このRは水素またはメチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基、ビニル基、フェニル基などのような炭素1～8個の炭化水素基、Aはエポキシ基、アクリル基、メタクリル基、アミノ基のうちの少なくとも1個を有する置換または非置換炭化水素、a、bおよびa+bは1～3の正数を表わすものである。

そして、このエポキシ基を含有する炭化水素基

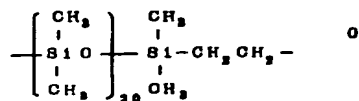
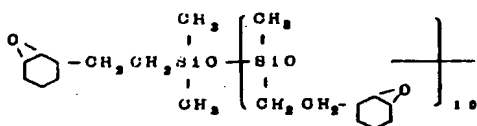
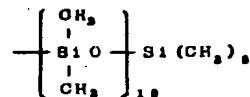
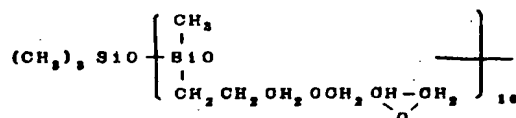


などが例示される。

また、このアクリル基またはメタクリル基を含有する炭化水素基は一般式



などが挙げられ、このような炭化水素基を含むオルガノポリシロキサンとしては

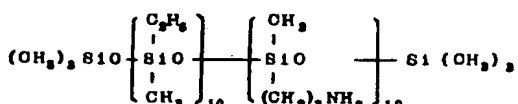
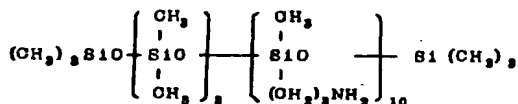
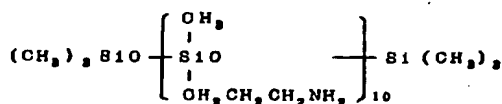
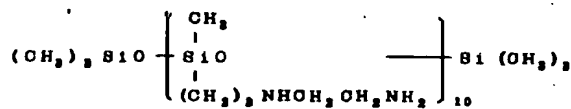


またはこのアルコキシレランと $CH_3Si(OCH_3)_3$ 、 $(CH_3)_2Si(OOCH_3)_2$ 、 $C_6H_5Si(OOCH_3)_2$

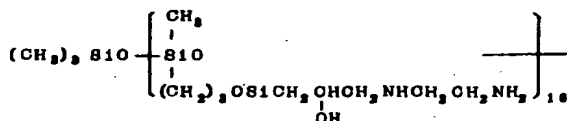
$CH_2=CHSi(OO_2H_3)_2$ のような炭化水素基結合レランとの共加水分解物、さらにはオクタメチルクロタトラシロキサンまたはテトラメチルクロタトラシロキサンなどの環状シロキサンと上記アクリルまたはメタクリルアルコキシレランポリマーとの平衡化反応生成物などが例示される。

さらに、このアミノ基を含有する炭化水素基は一般式 $H_2N(OH_2CH_2NH)_m R'$ あるいは $HR'NR'$ (ここにR'は炭素数1～6個のアルキレン基、R'は水素または炭素数1～8個の脂肪族炭化水素基、mは1～3の正数) で示されるものであり、このような基をもつオルガノポリシロキサンとしては

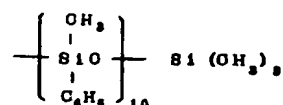
特開昭58-42682(4)



などが例示されるが、これにはまたエポキシシロキサンとアミンとの反応生成物として



に応じて調整すればよく、例えばこの撥水撥油剤により処理される繊維製品の風合改良を主目的とする場合にはこのオルガノポリシロキサンを1〜30%の範囲とし、高透気性の改良を主目的とする場合にはこれを10〜50%とすることがよい。しかし、この配合量は前記したオルガノポリシロキサン中におけるエポキシ基、アクリル基、メタクリル基、アミノ基を含む炭化水素基の量によつて調整してもよく、これはオルガノポリシロキサン中に5〜50モル%の範囲で調整すればよい。また、このポリフロロアルキル基含有重合体とオルガノポリシロキサンの配合はこれらをそのまま混合し、ついで必要に応じ、これに溶媒を添加して溶液状とするか、あるいはこれを乳化しエマルジョンとして使用してもよいが、これはポリフロロアルキル基含有重合体とオルガノポリシロキサンを各別に溶液またはエマルジョンとしてから混合し使用してもよい。



なども例示される。

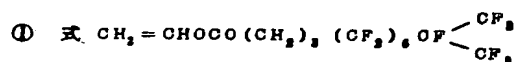
本発明の撥水撥油剤は上記したポリフロロアルキル基含有重合体とこれらのオルガノポリシロキサンとから構成されるのであるが、このオルガノシロキサンは上記したエポキシ基、アクリル基、メタクリル基またはアミノ基を含むオルガノポリシロキサンの少なくとも1種類を選択すればよい。しかし、これはその2種または2種以上の混合物でもよく、これはまたそれらの共重合体であってもよい。なお、このポリフロロアルキル基含有重合体とこれらのオルガノポリシロキサンの配合比はポリフロロアルキル基含有重合体50〜99%に対しオルガノポリシロキサン1〜50%とされるが、この配合比は目的とする撥水撥油剤に求められる性質とこのオルガノポリシロキサンの種類

なお、本発明の撥水撥油剤は各種の繊維製品の処理に使用することができ、この処理対象とする繊維布に特に例外はなく、これはポリアミド系、ポリエステル系、アクリル系、ポリオレフィン系などの合成繊維布、さらには綿、羊毛、絹などの天然繊維布、およびこれらの混紡品のいずれにも適用することができる。

つぎの本発明の実施例をあげる。

実施例

1) ポリフロロアルキル基含有重合体エマルジョンの調製：



で示されるポリフロロアルキル基含有重合体20gにアクリル酸エチル5g、ジアセトンアクリルアミド5g、ソジウムラウリルサルフェイト2gおよび過硫酸カリウム0.01gを添加し、これらを200mlのフラスコ中で70℃で5時間反応させたのち濾過してエ

特開昭58- 42682 (5)

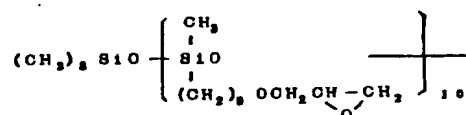
エマルジョンを作った（以下これをF-1と略記する）。



で示されるポリフロロアルキル基含有重合体20gにヒドロキシルエチルアクリレート5g、ステレン5g、ソジウムラウリルサルフェート2gおよび過硫酸カリウム0.01gを添加し、これらを200mlのフラスコ中で70℃で5時間反応させたのち濾過してエマルジョンを作った（以下これをF-2と略記する）。

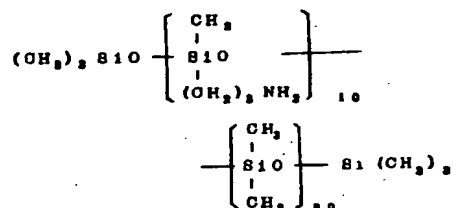
2) オルガノポリシロキサン・エマルジョンの調製:

① エポキシ基含有オルガノポリシロキサン・エマルジョン



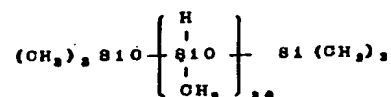
（以下これを8-2と略記する）。

③ アミノ基含有オルガノポリシロキサン・エマルジョン

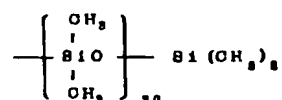


で示されるオルガノポリシロキサンを上記8-1と同様に処理してエマルジョンとした（以下これを8-3と略記する）。

④ メチルヒドロジェンポリシロキサン・エマルジョン

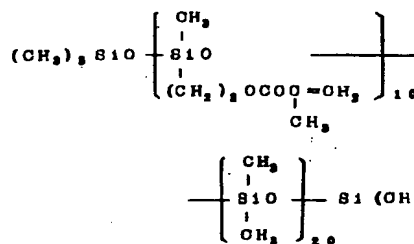


で示されるオルガノポリシロキサンを上記



で示されるオルガノポリシロキサン80gにポリオキレエチレンソルビタン脂肪酸エステル2gを添加し、これにホモミキサーで攪拌しながら水68gを添加して均一なエマルジョンとした（以下これを8-1と略記する）。

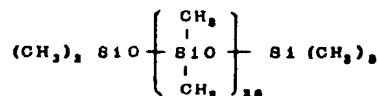
② メタクリル基含有オルガノポリシロキサン・エマルジョン



で示されるオルガノポリシロキサンを上記8-1と同様に処理してエマルジョンとした

8-1と同様に処理してエマルジョンとした（以下これを8-4と略記する）。

⑤ ジメチルポリシロキサン・エマルジョン



で示されるオルガノポリシロキサンを上記8-1と同様に処理してエマルジョンとした（以下これを8-5と略記する）。

3) 繊維布の処理

上記エマルジョンF-1またはF-2 3%、エマルジョン8-1 ~ 8-5 1%または2%、残余水からなる撥水剤油剤にポリエステル60%を混紡したポリエステル/綿ブロード地を浸漬したのち、マングルでしぼり、110℃で2分、ついで170℃で2分加熱キュアした。

4) 評価方法

上記で得た撥水剤油剤処理品について、その撥

水性、油性、柔軟性、高速縫製性を下記によりテストした。

耐水性・・・J I S L - 1 0 7 9

スプレー法

油性・・・スリーエム法（3M法）

柔軟性・・・上野山機構株式会社製配合

メーターにより10×10cmの布

地について25℃で測定

高速縫製性・・・試料600mmの布地6枚

を重ね、工業用ミシン（5000

rpm）で15針、25mmでテス

トし、次式で可縫率を算出した。

$$\text{可縫率} = \frac{\text{可縫距離 (mm)}}{\text{試料長 (mm)}} \times 100$$

5) 試験結果

区分	区	F1~2 添加量	S1~5 添加量	耐水性	油性	柔軟性	可縫率 (%)
実 施 例	1	F-1 3%	S-1 1%	100	100	1390	75
	2	"	" 2%	100	90	1360	83
	3	"	S-2 1%	90	110	1330	80
	4	"	" 2%	90	100	1325	85
	5	"	S-3 1%	100	100	1300	85
	6	"	" 2%	100	90	1255	95
	7	P-2 3%	S-1 1%	100	100	1388	70
	8	"	" 2%	100	100	1370	86
	9	"	S-2 1%	100	110	1320	85
	10	"	" 2%	90	100	1330	90
比 較 例	11	P-1 3%	S-4 1%	100	90	1420	78
	12	"	" 2%	90	90	1400	83
	13	"	S-5 1%	70	80	1360	75
	14	"	" 2%	50	70	1345	85
	15	P-2 3%	S-4 1%	100	90	1430	75
	16	"	" 2%	70	80	1320	80
	17	"	S-5 1%	90	80	1370	70
	18	"	" 2%	60	60	1350	86

BEST AVAILABLE COPY